



平成29年2月27日

各 位

会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 田島 秀二
(コード番号:7707 東証マザーズ)
問合せ先 管理本部長 福井 三佐子
(TEL.047-303-4800 <http://www.pss.co.jp/>)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

●開催状況

開催日時 平成29年2月24日(金) 16:00~17:30

開催方法 対面による実開催

開催場所 東京証券会館9階第9会議室
東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8

■添付資料

PSS 決算説明会

以上

PSS決算説明会



平成29年2月24日
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

STRICTLY PRIVATE AND CONFIDENTIAL

© PSS

最初に PSSの事業領域で起こっている事

■遺伝子診断分野における自動化の競争が始まり、業界の企業再編が世界的に起っています。

米セラノス、血液検査精度に疑いの声

一時は企業としての評価額が1兆円を超えた血液検査ベンチャー、米セラノスの混迷が深まっている。提携関係にあったドラッグストア大手から契約違反で提訴されたほか、投資家からも複数訴訟を起こされている。売り物だった検査技術に精度の点などで問題が指摘され、信用が急低下。リストラも余儀なくされている。

同社は指先から血液を1滴採るだけで多様な検査ができる低価格の検査手法を開発したとして巨額の資金調達に成功。企業評価額は一時、90億ドルを超えた。

だが米規制当局(FDA)は2016年7月、検査の技術的な問題があったとしてセラノスに対し実験施設の運営停止、エリザベス・ホームズ最高経営責任者(CEO)には最低2年間医療検査事業に関与しないよう命じた。

(2016/12/26付 日本経済新聞参照)

診断機器市場M&Aの動き

大手の診断機器メーカーも大規模合併に乗り出し、この分野にも変化があらわれてきている。2016年9月、Cepheid社とDanaher社は、Danaherが分子診断企業であるCepheidを約40億ドル(売上5.39億ドルの7.4倍)で買収する形で合併することを発表した。この買収によりDanaherの50億ドル規模の診断事業が強化され、2桁の売上増をもたらすと期待される。

サーモフィッシャーサイエンティフィックも2016年に臨床検査・診断分野に多くの投資を行った企業である。2016年初頭に同社はAffymetrix社を約13億ドル(売上3.5億ドルの3.7倍)で買収することを発表した。この買収により同社は細胞分析、遺伝子分析などの事業を取得する。さらに5月には同社は電子顕微鏡大手のFEI社を42億ドル(売上9.3億ドルの4.5倍)で買収することを発表。この取引は当初の予定より早く9月に完了した。

(医療機器業界の M&A in 2016参照)

決算説明会の内容

1, 第32期第2四半期決算と第32期通期の見通し

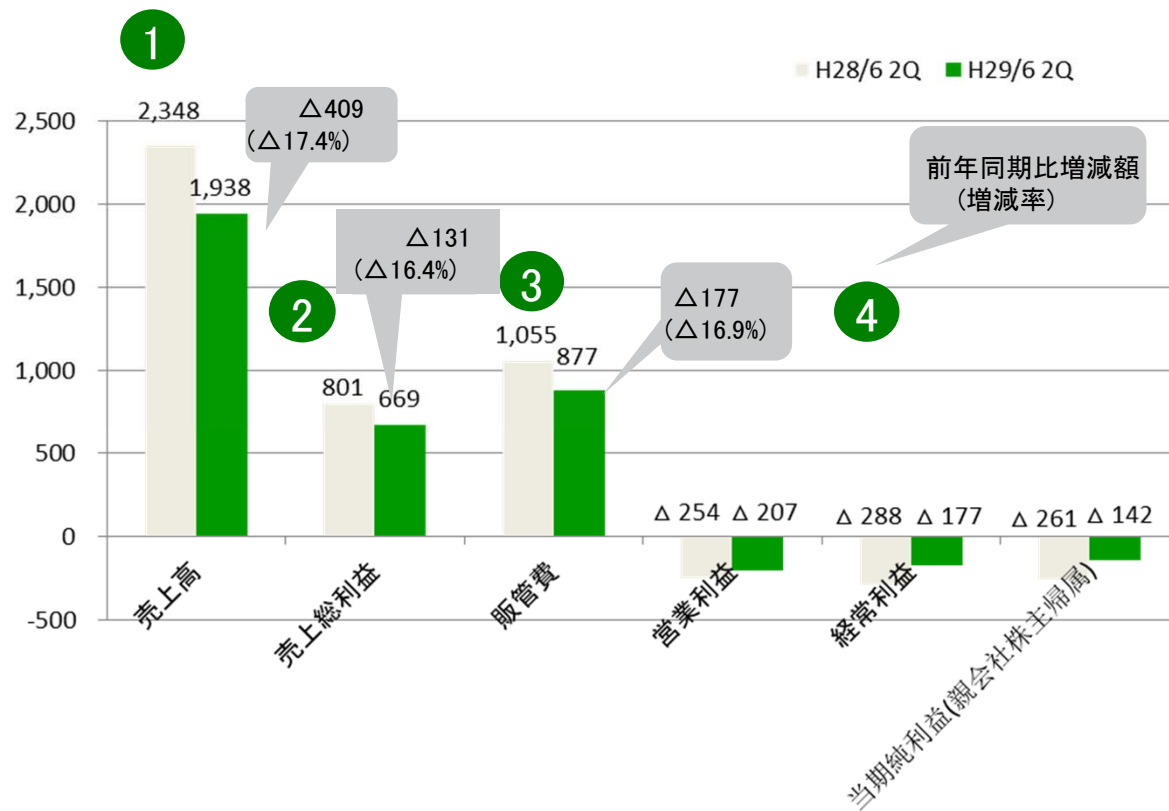
2, トピックス

1,第32期第2四半期決算と第32期通期の見通し

第32期(H29/6)第2Q連結累計期間業績について

■ 当第2四半期連結累計期間の業績は、対前年同期比減収増益となりました。

(単位:百万円)



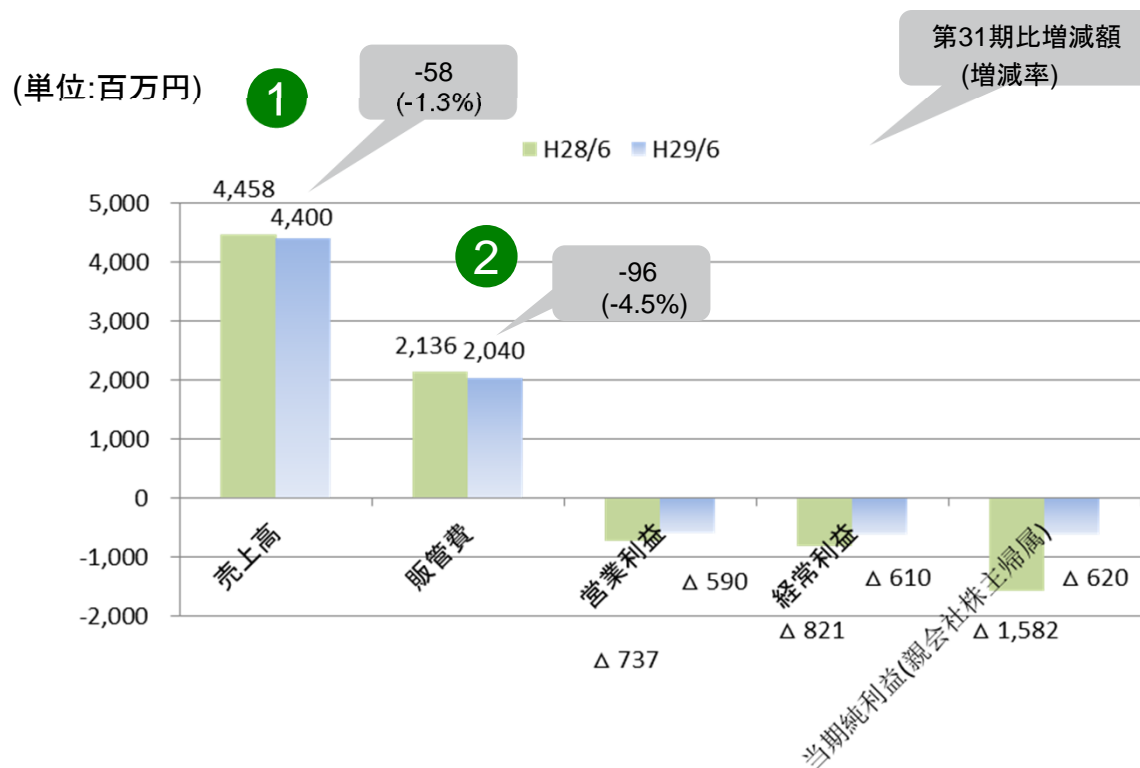
◆ 第31期(H28/6)第2Q業績比

- ① ✓売上高の減収及び総利益の減益
全自動遺伝子診断装置「geneLEAD XII Plus」については、OEM先を通じて順調な販売推移となり、当初計画どおり前年同期から2倍の売上計上となりました。一方で、大手OEM先の一部において、製品出荷が一時休止となっている影響と自社販売については、代理店へのアプローチなどの活動を強化しておりますが、本格的な販売拡大には今しばらく時間が必要な様子です。
- ②
- ③ ✓販管費は前期比削減
研究開発費が290百万円(前年同期比11.4%減)となったほか、積極的にコスト低減に取り組んだことによるものです。
- ④ ✓為替差損の計上
近時の円安による影響により為替差益16百万円が発生しました。

第32期(H29/6)通期見通し

- 引き続き赤字となる見通しであります。当社グループといたしましては、リストラや開発費の削減による黒字化を目指すのではなく、geneLEADシリーズを中心とした遺伝子診断分野への事業展開を図ることで、業容拡大による早期の黒字化を目指します。

(なお、為替の見通しは、1ドル=100円、1ユーロ=110円にて算定しております。)



◆ 第31期(H28/6)業績比

- 1 **✓ 売上高対前期比微減**
一部のOEM先の販売において減少を見込んだ一方、エリテック社向けの全自動遺伝子診断装置の市場投入が進んでいること、それに搭載するDNA抽出試薬とあわせ増収を見込むとともに、近年注力してまいりました自社販売拡大については、通期において上半期の遅れを取り戻すべく営業活動を更に強化することで、当初計画通りの売上を達成を目指しています。
- 2 **✓ 販管費対前期比削減**
引き続き積極的な研究開発投資795百万円(前年同期比2.3%増)を行うものの、第31期(平成28年6月期)の減損損失の計上に伴う減価償却負担の低減効果やその他の経費削減努力を見込んでいます。通期におきましては、上半期に計画していた研究開発費の一部が下半期に持ち越される見込みです。

2,トピックス

OEM製品販売

「PSS、ELITechとOEM供給製品(全自動遺伝子診断装置)の日本国内販売及び試薬販売に関する契約締結のお知らせ」
(平成29年1月5日)

この度の欧米市場における本製品の順調な販売状況を鑑みて、販売拡大を行うためPSSは「ELITe InGeniusTM」の日本国内販売及びELITechのCE-IVD規格試薬販売に関する契約締結を行いました。

PSSの田島秀二社長は、「全自動化遺伝子診断システムgeneLEAD XIIは、PSSの今迄の技術の集大成として位置付けており、そのシンプルでコンパクトなコストパフォーマンスの高い全自動化システムは、新たな事業分野を拓くものとなります。すなわちgeneLEAD XIIの汎用性を活用し、感染症、がん、遺伝病、食品検査等の分子(遺伝子)生物学研究をテーマとする市場に販売を行うものです。今回の販売契約が、日本国内において従来遺伝子情報の活用が困難であった臨床研究及び遺伝子診断の分野にブレークスルーをもたらす製品となることに大きな期待をしています。」と語っています。



geneLEAD XII システムの特徴

- DNA/RNA抽出からReal-time PCR解析までを**完全自動化**
- MagDEA Dx SVとの組み合わせで**様々なサンプル**に対応
- **6ch蛍光検出、12ch独立制御PCR**を搭載
- 様々な**Real-time PCR Chemistry**に対応

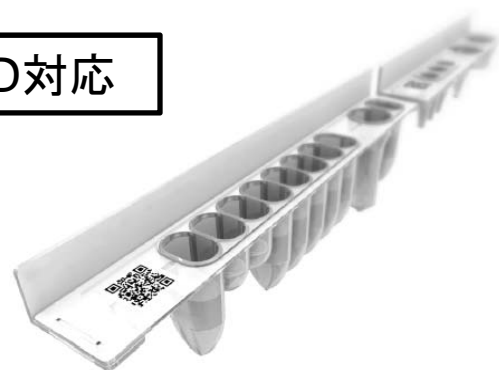
ユニバーサル抽出試薬



MagDEA Dx SVの特徴

- magLEAD(抽出装置)、geneLEADに対応した核酸抽出試薬
- 小容量**サンプル**から**30分以内**で抽出可能
- 様々な**サンプル**に対応
- 抽出に必要な試薬は**全てプレパック化**

CE/IVD対応



「PSS、DiagenodeとPSSの全自動遺伝子診断装置「geneLEADⅧ」に関して試薬開発及びOEM供給契約を締結」
(平成28年9月23日)

PSSが開発した全自動遺伝子診断装置(リアルタイムPCR診断装置)であるgeneLEADⅧに搭載する試薬開発及びOEM供給に関して合意いたしました。この合意により、Diagenodeが保有する業界最先端の臨床診断薬(定量PCR測定用)のうち感染症診断用8項目が最適化されgeneLEADⅧに搭載されます。これらの臨床診断薬は、呼吸器及び腸疾患を想定しており、PSSはDiagenodeから試薬のOEM供給を受け、PSSブランドで販売を開始します。



geneLEADⅧの特長

- 小型・安価でさらに市場性を高めたモデル
- 徹底的なシンプル化をはかり、さらに信頼性を向上
- 従来のフルオートメーションシステムと同等の診断性能
- 欧州・アジアを中心に試薬とセットをした自社販売開始予定

国家プロジェクト参画

「NEDO PJ(植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発)の参画について」(平成28年9月15日)

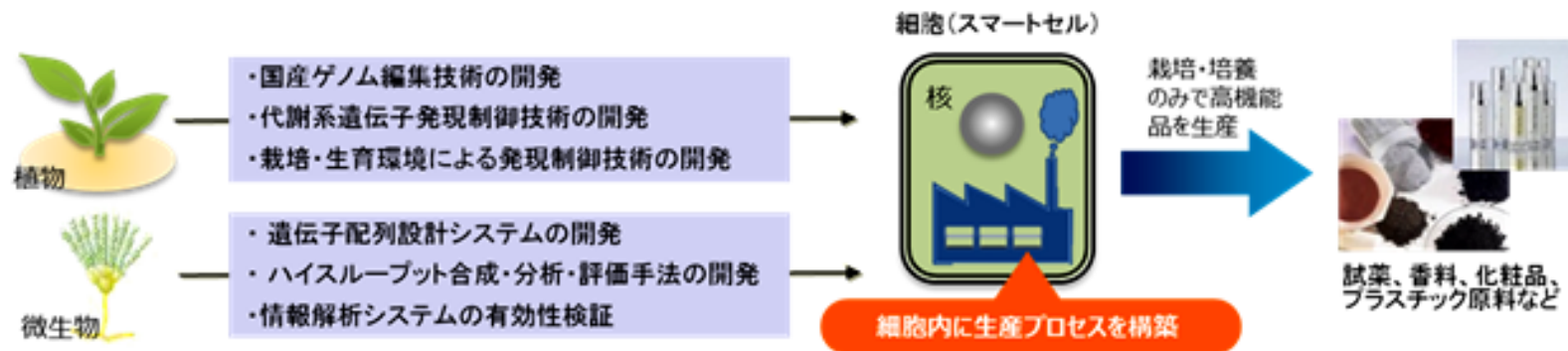
事業名「植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発PJ」にて、研究開発項目「高生産性微生物創製に資する情報解析システムの開発」の委託先として、共同研究を行う各企業とともにPJに参画することになりました。

このプロジェクトでは、植物や微生物の細胞が持つ物質生産能力を最大限に引き出した“スマートセル”を作り出し、従来合成法では生産が難しい有用物質の創製、生産プロセスの低コスト化や省エネ化を実現します。

PSSの研究開発テーマは“DNA精製技術の開発”のうち「磁性ビーズを用いた配列特異的DNA断片除去法の開発」にて、DNA精製試薬の開発を目指しています。

このプロジェクトでは、植物や微生物の細胞が持つ物質生産能力を最大限に引き出した“スマートセル”を作り出し、従来合成法では生産が難しい有用物質の創製、生産プロセスの低コスト化や省エネ化を実現します。

URL: http://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_100595.html



本日は、PSSの事業説明の機会を頂きまして、誠に、ありがとうございます。
今後とも、ご理解、ご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

平成29年2月24日
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
URL: www.pss.co.jp

(お問い合わせは、IR・社長室まで)
電話: 047-303-4800
メール: ir@pss.co.jp